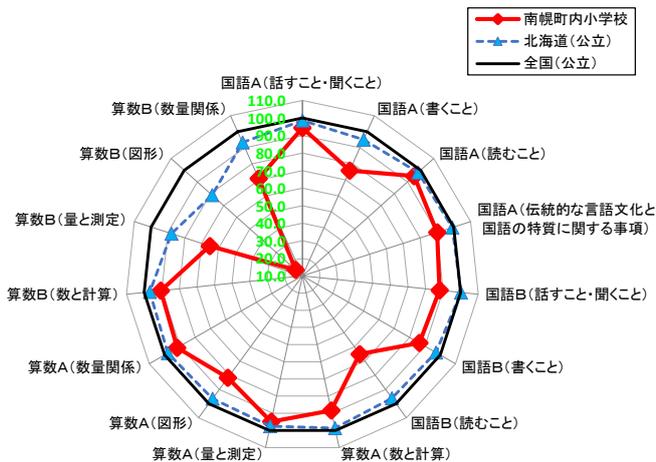


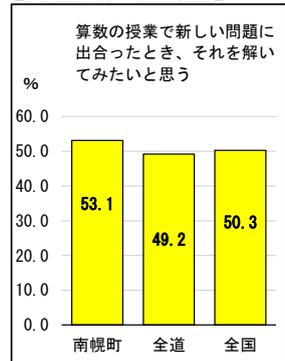
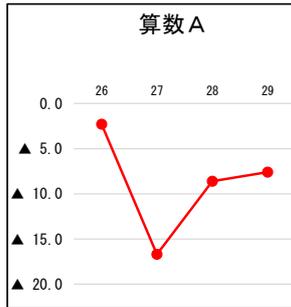
■南幌町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、児童数:49人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

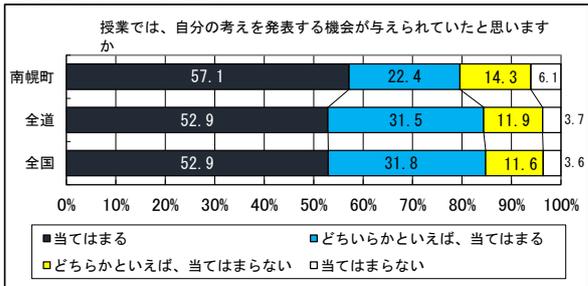


【平均正答率の全国との差の推移】 【児童質問紙調査】

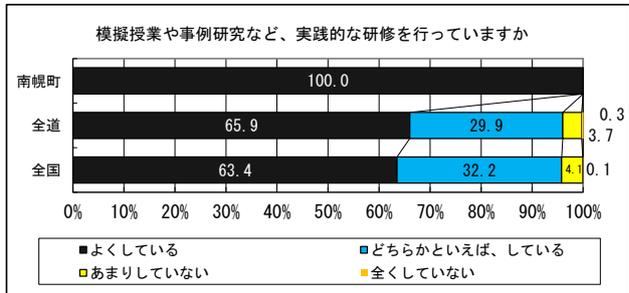
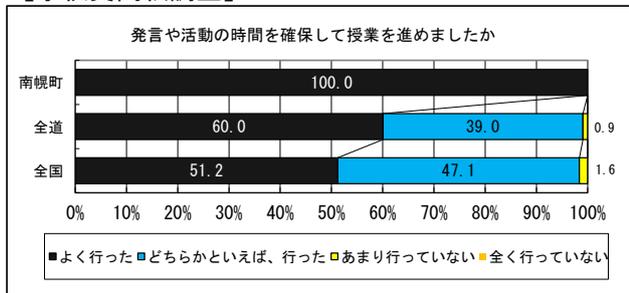


※「平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| | | |
|-------|--|---|
| 教科 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「読むこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 算数Aでは、「量と測定」で全国に最も近くなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発言や活動の時間を確保して授業を進めることをよく行った結果、自分の考えを発表する機会が与えられていたと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |
| 児童質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回っている。 ○ 「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童の割合が全国を上回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行った結果、日常の授業改善が図られ、算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う児童が増え、算数Aで平均正答率の全国との差が縮まったと考えられる。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 発言や活動の時間を確保して授業を進めることをよく行っている。 ○ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行っている。 | |

【南幌町の学力向上策】

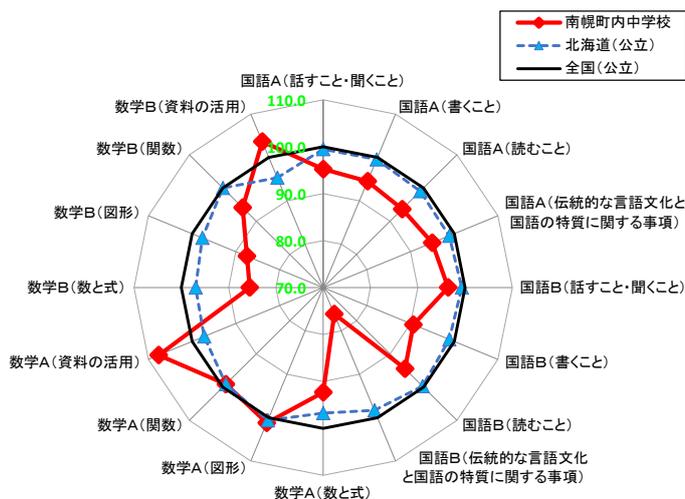
- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ T・Tや習熟度別、少人数指導による個に応じた指導の充実
- ◎ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の効果的な活用
- ◎ 「学生地域定着推進事業」による学生ボランティアを活用した長期休業中の補充学習

■南幌町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:54人)

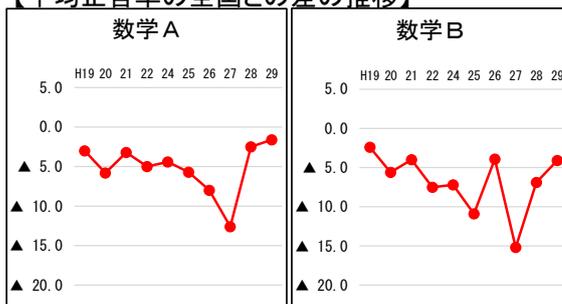
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

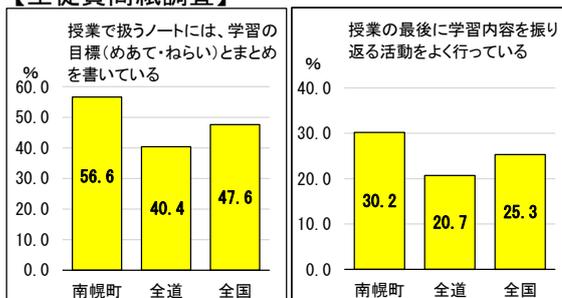


【平均正答率の全国との差の推移】

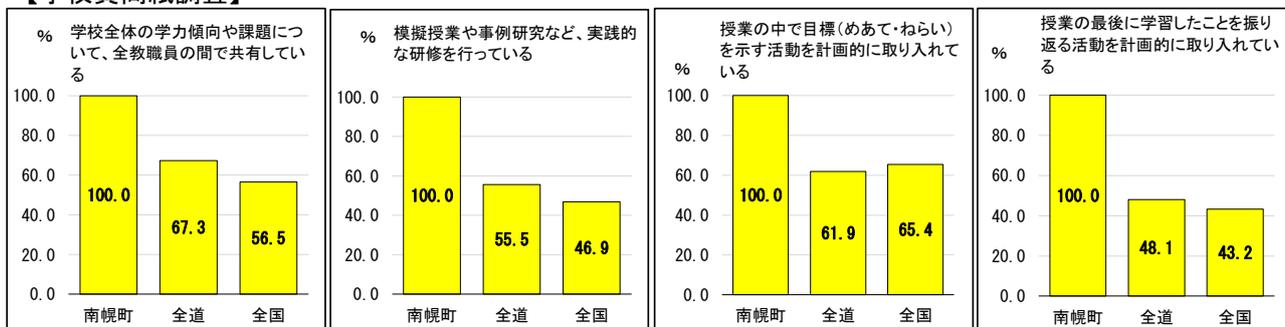


※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

| 教科 | 分析内容 |
|-------|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Bでは、「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなっている。 ○ 数学Aでは、「図形」「資料の活用」で、Bでは、「資料の活用」で全国を上回っている。 |
| 生徒質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた」と回答した生徒の割合が全国を上回っている。 ○ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合が全国を上回っている。 |
| 学校質問紙 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している。 ○ 模擬授業や事例研究など、実践的な研修をよく行っている。 |

【南幌町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校における基礎学力向上プラン等に基づく組織的な取組の推進
- ◎ T・Tや習熟度別、少人数指導による個に応じた指導の充実
- ◎ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の効果的な活用
- ◎ 「学生地域定着推進事業」による学生ボランティアを活用した長期休業中の補充学習